

1. 長期成長ビジョン

製造事業の拡大に注力し、設計・製造機能を統合したソリューション提供を行う課題解決型企業へと変革を遂げ、成長市場へのアプローチにより飛躍的な成長を遂げるとともに、地元高岡市への貢献を目指す。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

1. 製造事業の拡大と課題解決型企業への変革

- 高付加価値の製造事業（液体自動充填装置、スマホ等向けMLCC*1や全固体電池*2向け治具）の拡大に注力。70年の歴史と卸売業務を通じて築いた2000社の取引先に対し、単なる商材の卸売から、設計・製造機能を統合したソリューション提供を可能とし、顧客企業の課題を解決し、競争力向上に貢献する。

2. 巨大な市場ポテンシャルへの積極的なアプローチ

- 高齢化に伴い拡大が見込まれる医薬品市場、スマホ等向けMLCC*1及び産電・車載向け全固体電池*2市場等、今後の成長ポテンシャルが見込まれる市場に積極的にアプローチし、飛躍的な成長を実現する。

3. 地元である富山県高岡市への貢献

- 当社事業を発展させ、当社が地元人材の魅力的な受け皿企業となることで、就職先の不足による高岡市からの若い人材の流出を防ぐ。また閉校となった旧小学校の跡地を活用し、避難所や地域イベントスペースとしての機能を維持し、地元高岡市への貢献を目指す。

会社全体の売上成長目標（～31/8期）

- 売上高成長率+128.4%（直近決算期比）
- 売上高増加額+53.7億円（直近決算期比）

会社全体の賃上げ目標

- +2.0%（直近事業年度～基準年度）
- +6.1%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

1. 顧客ニーズの変化（省力化、課題解決型提案の要求）

- 顧客が求める価値が「単なる仕入れ価格の安さ」から「業務効率化や生産性向上」へとシフトしている。
- 省力化ニーズの高まりにより、単なる材料提供のみではなく、当社の技術力を用いた課題解決型の提案が求められるようになった。

2. 巨大な市場ポテンシャルの存在

- 高齢化を背景とした医薬品市場の拡大、スマホ等向けMLCC*1及び産電・車載向け全固体電池*2といった市場の成長が見込まれる。
- これらの市場に強みを有する大手電子部品メーカー（具体的な社名等は後述）から当社技術は高い評価を得ており、これら市場への挑戦は自社の強みとマッチする。

内発的動機

1. 父の姿を見て育ったことで培われた「経営者としての覚悟」

- 当社社長は4代目であり、幼いころから父の経営する姿を間近で見て育ち、ものづくりの世界に誇りと愛着を持ってきた。
- 事業承継にあたり、「単に会社を維持するのではなく、時代の変化に対応しながら発展させていくべきだ」という強い思いがあった。

2. 地域の未来に貢献するための決意

- 社長の出身校でもある地元小学校が閉校となった際、地元住民・地元企業としてその跡地の活用方法を考えたときに「自社と地域が共に発展する場所として活用したい」という思いが生まれた。新工場建設は、単に生産力を高めるためではなく、「地域の企業・行政・教育機関と連携し、高岡のものづくり産業の未来を支える場をつくる」というビジョンの実現手段である。

*1：MLCC（積層セラミックコンデンサ）とは一時的に電気を蓄えたり放出したり、信号に含まれるノイズの吸収や一定の周波数の信号を取り出す等、モバイル機器や家電製品、IoT機器などで採用されている部品。

*2：全固体電池とは電池の電解質を固体にした電池で、リチウムイオン電池などの従来の電池と比べて高い性能が期待されている。

2.補助事業の概要（1/3）

小学校閉校跡地を活用して本社・工場・倉庫各機能を集約した新工場を建設し、労働生産性の向上を図る。
また、用地の一部は避難所やイベント広場として活用し、地域貢献の場としての機能を持たせる。

補助事業の 背景・目的	部門間連携及び施設大規模化による労働生産性向上の必要性和、小学校閉校に伴う跡地活用の地域ニーズが合致。自社機能の集約化による生産性向上と地域貢献を同時に図る。	事業費 (補助額)	17億円 (5.5億円)
----------------	---	--------------	-----------------

設備投資の
内容

【本社・工場・倉庫を集約した新拠点の建設】

①投資の概要

- 少子化・人口減少の影響により閉校となった小学校の跡地を有効活用し、本社・工場・倉庫機能を統合した**中核拠点**を整備する。

②現在抱えている課題

- 現在の本社事務所、工場は増築を繰り返した影響で、各建屋が小規模に分散するなど非効率な配置となっており、生産性向上の妨げとなっていた。

③課題解決・労働生産性向上

- 製造**工場を1棟1フロアに集約**し、設備の**最適配置、導線効率の最適化**を実現することにより**労働生産性を高める**。また、**倉庫を本社スペース内に集約**(現在は本社敷地含めた3か所に点在)し、**物流業務の効率化**を図る。さらに事務所スペース含めた各部門を1棟に集約することで部門間の協働促進・情報共有を図り全社一丸での売上向上を目指す。

④地域への貢献

- 閉校跡地の一部**は産業観光施設（計りの歴史や仕組みを子供も学べるもの）、イベント広場、地域メモリアル施設として**一般開放**。また**体育館**は災害時の近隣住民の**避難所として活用**し、「地域共創空間」として整備する。また地元行政と連携して**子供向けの出前講座等**を予定しており、**企業イメージの向上と長期的な地元の若者の雇用拡大**を図る。

【完成イメージ】

危険物倉庫 屋外倉庫 既存/体育館 (避難所)
既存/厚生棟 イベントスペース兼体育館駐車場
本社事務所工場棟 緑地公園
屋上ソーラーパネル メモリアル施設

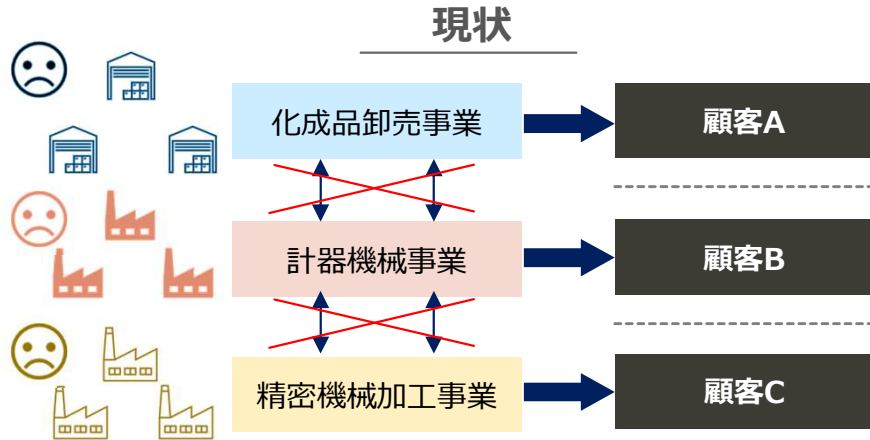
補助対象施設

目標値	項目	2028/8期 (基準年度)	2031/8期 (基準年度+3年後)
	労働生産性 (単位: 万円/人)	667万円/人	1,199万円/人 (年平均上昇率+21.6%)
	従業員1人あたり給与支給総額 (単位: 万円/人)	474万円/人	566万円/人 (年平均上昇率+6.1%)
	役員1人あたり給与支給総額 (単位: 万円/人)	-	- (年平均上昇率+6.1%)
	補助事業に係る従業員数 (単位: 人)	78人	125人

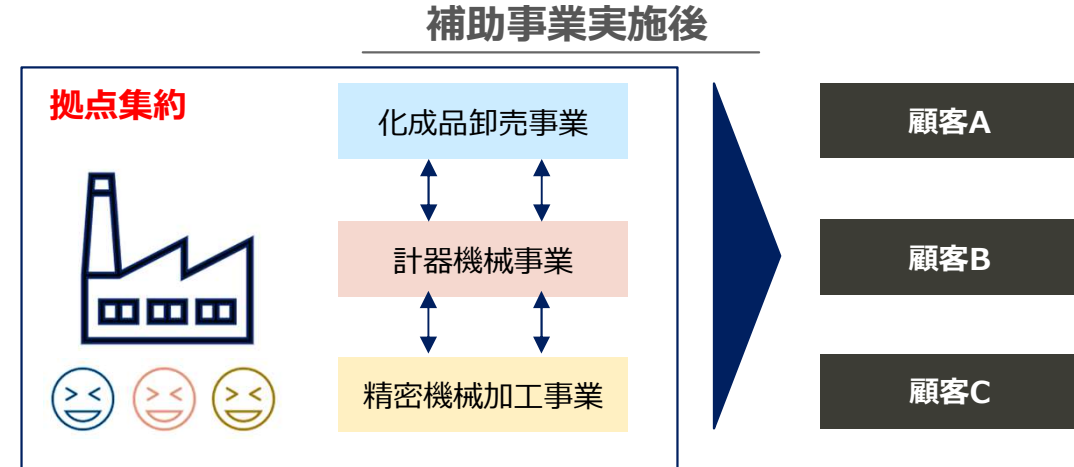
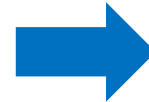
2.補助事業の概要（2/3）

分散している施設を一か所に集約することで、作業効率の向上を図るとともに、顧客情報の積極的な共有を促し、全社一体となって成長するための事業部間シナジーを生み出す。

【拠点集約化の効果】



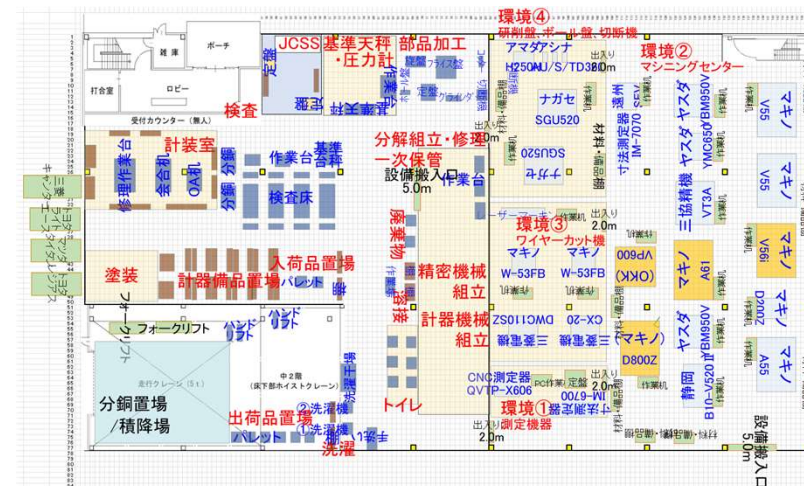
- 施設・棟・人員が細かく分かれており、作業効率が悪く、情報の分断も生じてしまっている。
- 顧客情報の共有も不十分で事業部間のシナジーが発生していない。



- 1棟ワンフロアに製造機能が集約し、効率化。
- 本社敷地内1か所に倉庫を集約し、荷受け等、物流業務を効率化。
- 事務所スペース含めた各部の人員が1棟に集約し、部門協同や情報伝達が活発化。顧客情報の共有等、事業部間のシナジー発揮が可能となる。



現在の当社のレイアウト



新工場内のレイアウト

- 工場スペースの大規模化により、設備の最適配置、効率的な導線設計を実現。
- 液体自動充填装置の組み立てスペースも確保でき、製造効率が向上。

2.補助事業の概要（3/3）

高精度マシニングセンタ2台を導入することで今後受注が大きく伸びることが予測されるスマホ等向けMLCC*₁や全固体電池*₂用の治具の生産に対応する。

設備投資の内容

【高精度マシニングセンタ×2台】

①投資の概要

- 高精度かつ自動加工を行うマシニングセンタ2台を導入する。

②現在抱えている課題

- 主要得意先である村田製作所からのスマホ等向けMLCC*₁や全固体電池*₂用治具の受注が今後大きく伸びることが見込まれるが、現行設備の製造能力ではこの受注に対応しきれない。

③課題解決・労働生産性向上

- 現行の設備では加工が不可能な「高精度部品(充填機のノズルや位置決め治具等)」の加工を実現し、生産能力・速度も大幅に向上する。また、CAD/CAM連携により労働生産性も向上する。



【既存システムのアップデート対応】

新規設備導入、新社屋・工場建設に伴い、既存システムに必要なアップデートを行う。

*₁ : MLCC（積層セラミックコンデンサ）とは一時的に電気を蓄えたり放出したり、信号に含まれるノイズの吸収や一定の周波数の信号を取り出す等、モバイル機器や家電製品、IoT機器などで採用されている部品。

*₂ : 全固体電池とは電池の電解質を固体にした電池で、リチウムイオン電池などの従来の電池と比べて高い性能が期待されている。